



本日の例会：2020 年 11 月 6 日 通算 1576 回 本年度 第 15 回
クラブ協議会 13:00 ～ 14:00: 「今後の予定について」

● 第 1575 回 例会報告 / 2020 年 10 月 23 日

出席報告：会員 47 名 29 名 (内 ZOOM 8 名)
ゲスト：加治佐 平、イミン 計 2 名 (敬称略)

卓話：「アスリートデータベースによる
現役～セカンドチャンスの支援」
株式会社 WorldTryout 代表取締役 加治佐 平 氏



ご紹介者：鈴木会員

米山奨学生 イミンさんよりモンゴル料理のお店
「新オット屋」のご紹介がありました。

12 月いっぱい
閉店となります。
モンゴル料理は美
味しいので、是非食
べてくださると嬉
しいです。月曜日が
お休みです。



10 月 23 日 8 件 17,000 円 累計 344,000 円
多額の寄付を有難うございました。(敬称略)

熊本誠司/コンシニ/河邊幸夫/小林博茂/穂苅裕久/
谷口友保/関野雄志/森本勝好



今 後 の 予 定	日 付	開始時間 終了時間	場 所	事 項	内 容
	11 月 13 日	12:30 13:30	B1 オーロラ ANA インターコンチネンタルホテル東京	例 会	卓話：イニシエーションスピーチ 関野 雄志 氏
	11 月 20 日	12:30 13:30	B1 オーロラ ANA インターコンチネンタルホテル東京	例 会	卓話：「未定」 株式会社 住環境計画研究所 代表取締役会長 中上英俊氏
	11 月 27 日	12:30 13:30	B1 オーロラ ANA インターコンチネンタルホテル東京	例 会	卓話：株式会社カンミ堂 代表取締役 末永 卓 氏
	12 月 4 日	12:30 13:30	B1 オーロラ ANA インターコンチネンタルホテル東京	例 会 総 会	クラブ総会
	12 月 11 日	12:30 13:30	B1 オーロラ ANA インターコンチネンタルホテル東京	例 会	卓話：「未定」 中国鑑測家 (元住友商事総合研究所中国専 アナリスト) 北村 豊 氏

質問3. ロータリー活動への参加や期待について変化がありましたか？

①大いにあった 13名 ②少しあった 9名 ③あまりない 5名 ④全くない 1名

- ・例会は Zoom 参加。メンバーに高齢者が多いため、原因・感染経路が解明されていない中での例会はリスクと考える。Zoom 参加が会場と同等に認められるのに対応は中途半端である。参加者にも昼食代を支給し画面を通し一緒にすることが良いと考える。＊自社はその様にしている。
- ・当初は例会に大勢で集まることに少し抵抗はあったが、現時点では特に問題を感じていない。これまで同様、ZOOM と実参加とのハイブリッド型で様子を見るのが良いと思う。
- ・コロナ問題以降、リアルの例会には参加出来ておりません。
- ・毎週出張しており、例会への参加がむずかしくなっている
- ・基礎疾患を抱えている家族がいることもあって、例会への出席を控えています。
- ・やはり、人と人のつながりを今一度つよく感じられる場として、ロータリーの存在意義は大きいと感じています。
- ・本年度は、2750 地区千代田グループガバナー補佐として、多忙である
- ・人との接触や外出自粛により、ロータリークラブの活動が全くできなってしまう、ご迷惑をお掛けしております。今後はもう少し活動できるように改善していきたいと思います。
- ・ハイブリッド型例会開催により、交流がまったくなくなるよりは、オンラインであっても会員の皆様と繋がりを保つことができ良かったと思います。
- ・コロナ禍以前の様に、ロータリアン同士の交流を深めたかったのですが、交流に不可欠なスキンシップを取ることが出来ずにいます。コロナ禍の早期の収束を願っています。
- ・例会は zoom 参加のみになった。地区情報委員会の委員長をしているが、これも Web 会議のみであるが、今のところ支障がない印象。
- ・これまでのように例会や親睦会に出席して顔を合わせるのが当たり前でなくなったことがショックでした。正直なところ、今後何を期待するのかもまだ明確ではありません。
- ・なかなか色々な活動が出来ない。例会へ出席して、お互いに感染する可能性がゼロでは無いので安全を考慮すると出席が出来ない。
- ・本年度拝命した責任があったので、1 年間を通して、コロナのリスクをいかに少なくするかについて考えた。9 月の状況ではハイブリット例会が開催されているので、参加メンバーと ZOOM 参加メンバーと同じことができるようになればいいとおもっております。ZOOM 参加については、メンバーそれぞれの都合(健康上、ファミリー間等)があると思うのですが、私自身も今後の展開によっては、体調管理上安心感があるので、ZOOM 参加の可能性もあるとおもっている。
- ・ロータリー活動は本来ボランティア、自由参加と理解していますので、自身の参加意欲やロータリーに対する期待は外部環境の変化により変化するものではありません。
- ・ロータリーは「親睦」と「奉仕」が両輪を成すものと思うが人との直接的なつながりが、根幹を成す親睦活動が三つの密を避けなければならない状況には、厳しいものがあるが、知恵を絞って乗り越えなければならない。

質問4. ロータリーに何か貢献したいですか？

①大いにしたい 12名 ②少ししたい 5名 ③あまりしたくない 0名 ④全くしたくない 0名

- ・短期的な奉仕ではなく、最終的な自立を促せるような又は、その奉仕を行わなければならないその根本的な問題・課題の解決を図れるような奉仕とフォロー。お金だけを渡すことで、何もしないよりましという奉仕はあまり自分には向いていない。
- ・職業分野ごとにスペシャリストが集まっている集団がロータリーなので、中途半端に寄付等するよりも、皆が職業スキルを発揮しあう形での社会貢献がもっとも直接的で合理的だと思う。
- ・今のところのリアルの例会には出席を控えさせていただいておりますので、その分寄付金などで少しでも貢献したいと思います。
- ・例会等への参加が、全くできておらず、申し訳ない気持ちでいっぱいである
- ・自分ができることは何でもやります。
- ・自身の生活・ビジネスに影響がない範囲であれば、「大いにしたい」と思います。但し、事実上、「少ししたい」になるように思われます。
- ・ロータリアンの端くれとして、大いに社会貢献に努めていきたい
- ・仕事の時間と例会の時間が重なり思うように活動できておりません。今後の活動のために改善の必要性を感じております。

- ・交流の場（委員会活動でもいいので）を、オンラインで増やしていければと思います。「ロータリーに貢献」もちろんしますが、「困っている方々へ貢献」していきたいと思います。困っている「当クラブ会員」の商品を購入→困っている「千代田グループ会員」の商品を購入→困っている「2750 地区の会員」の商品を購入・・・と、まずは近いロータリアンで困っている方々の支援を行い、徐々に視野を広くして支援の輪を広げていけたらいいのかな・・・と思います。
- ・コロナ禍で、生活に於いても困難をきたしている方達もいますし、メンタル的にも支援を求めている方達があります。今こそ、ロータリーの絆で効果的な活動をしたいのでこれから、いろいろなことを模索していきたいと思います。
- ・何か貢献をしたいのですが、具体的に何が出来るのか？と考えてしまいます。
- ・今年度は、ロータリーが現実に行っていることに、貢献できることがあまり見当たらず、寄付行為のみになるのではないかと。ロータリー活動そのものが社会状況の変化に合わせて、変化することも必要であると考えます。
- ・ロータリーは、公的な機関からの金銭的な要望でも受け入れる窓口が開かれているということを発信し要望を募り検討するシステムを持つ必要を感じます。現状での直接的な貢献は困難かと思っています。
- ・ロータリーに貢献することは主たる目的ではなく、ロータリーを通じて社会に貢献することだと思っています。上記を通じて特に所属するクラブや会員に貢献できれば良いと思っています。
- ・① 大いにしたいと言えるほどの貢献ができるとも思いませんので、②少ししたいとしました。

質問5.【奉仕プロジェクト委員長より】

コロナ禍の状況のなか、どのように奉仕活動を進めていくべきか、ご意見があれば是非お願い致します。

- ・短期的な奉仕ではなく、最終的な自立を促せるような又は、その奉仕を行わなければならないその根本的な問題・課題の解決を図れるような奉仕とフォロー。お金だけを渡すことで、何もしないよりましという奉仕はあまり自分には向いていない。
- ・困っている中小企業経営者のアドバイス、コーチング等
- ・①エッセンシャルワーカーへの支援、②意欲のある経済的に苦しい学生への支援、③飲食店や劇場への支援、④エンタメ系プロフェッショナルへの支援のうち、寄付金以外での支援となると、「④エンタメ系プロフェッショナルの支援」として、例会に卓話の代わりに招く。謝礼としてクラブから5万円+出席者から5万円（視聴料として2000円×25人）計10万円。月1回程度、開催。
- ・物理的な交流を伴う奉仕活動は不可能なので、できるのはネットを利用した活動しかない。上記のとおり、ロータリーは各種業界のプロフェッショナルが集まった集団なので、それを社会のために発揮しない手はないと思う。具体的には、赤坂 RC だけではなく、エリアや地区をまたいだ各種業界ごとのグループを横断的に作るのがよい。横のつながりから各種業界のグループを作り、当該業界のスキルを持つものとして何が出来るかを各業界ごとにやっていけばよい。とりあえずロータリークラブのネット上にそのようなお困りごと相談窓口などを作って社会の不満を吸い上げるなどがコストもかけずに手取り早くできる方法だと思う。
- ・今はイベント開催が難しいです状況ですので、しばらくは寄付金の活動がよろしいかと思います。
- ・ニューライフ意識の理解推進
- ・クラブの公式活動である以上、親睦と同じように開催は慎重に」。というのが私の考えです。以前から「〇〇と言えば赤坂 RC」のようなクラブの柱になるような継続活動ができたなら良いと思っていましたので、この機会にそういった検討、議論を深めるのもよいのではないのでしょうか。
- ・健康第一で進めるのが良いと思います。
- ・無理する必要はないと思う。ニーズを情報収集し、またはテーマを考えだし、できる手段（オンライン会議を含む。）を使って、できることを、できる範囲内で行えばよいと思う。
- ・医療従事者やコロナ禍において、困窮を極めている方々への支援
- ・感染対策のお手伝いなど、協力していきたいと思います。
- ・リアルな実働はできない（難しい）ため、寄付に主眼を置いて活動を行うことも必要かと思っています。
- ・この様な状況で、活動されている子ども食堂等を運営されている方達があります。ロータリー地域社会共同体を創設して、港区に於ける活動支援の中心となる様な活動をしたい。未だに、医療施設では、医療用マスクや防護服が不足していますので、ロータリーのグローバル補助金を利用した医療物資提供を行いたい。
- ・クラブ奉仕が第一歩で、感染防止を前提にリアルを研究し実施する。
- ・このような時ですので、無理に活動をしないで良いと思います。活動する場合には感染しないよう細心の注意を図るべきだと思います。
- ・奉仕活動中に感染者を出すことのないよう十分配慮しなければならない。
- ・現在他のクラブのロータリーアンと貧困家庭の子ども学習支援をやっているが、私は現場に行けず（先方もコロナリスクで来てもらうのを期待していない。）、少し支障がある。
- ・まだまだ、直接、お会いして対面で何か活動をする事は、お互いに不安になるため、寄付などを行うのが一番良いのではないかと思います。
- ・人が集まらなくても、できることで、何が出来るか？具体的に求められる活動の情報を集めなければならないのではないかと思います。
- ・対面での活動制限がある間の奉仕活動は困難ですが、何か手があるか考えます。

- ・基本的にコロナに対してロータリークラブは慎重であるべきだと思います。とはいえ、可能な奉仕活動を知恵を出し合って行うことは可能だと思います。
- ・実際の行動が伴う奉仕活動は当面難しいと思います。風の子会等以前より奉仕してきている先の状況を見て、寄付活動を行う。また、赤坂 RC の地域で少しでも役立つ寄付活動先の情報収集をしていく。
- ・毎年恒例の「障がい者と外に出よう」のイベントが中止になるなど、コロナの影響を大きく受けている状況です。昨年行ったすだて漁もそうですが、長い時間を一緒に過ごすことが必要な奉仕活動は行いづらいと思いますが、今年実施した医師会への防護服、マスクの寄付のような物資の支援、また金銭的な支援であれば実行可能ですので、そういった奉仕活動を検討していければと思っています。
- ・三密を避けた活動というのはいくらでもあると思う。ユニセフの発展途上国への寄付は、クラブの財政に余裕ができていいる今、従来以上に積極的に取り進めるべきと思う。

質問 6. 【親睦活動委員長より】

リアルな集まりの中でコミュニケーションを深めていくのが親睦委員会の担いですが、それができない今（今後の親睦活動について）その代わりとなるようなものなど様々なアイデアなどを自由にご意見伺えたらと思っています。

- ・先日の Zoom を介しての、奉仕に対する考えをそれぞれで意見交換できたことは良かったと考える。奉仕のことに絞って考えることなどは日常にはなく、その意見交換などは RC ならではと考えるため。この様な非接触での RC ならではのテーマを絞った話し合いは社会を大局的に観る上で良いと考える。
- ・週報で順番に全員のご紹介記事。
- ・コロナは長期化しそうですが、世の中が、心理的に交流を再開しようとする時期がくるまで、親睦活動はしばらく中止でよろしいかと思います。コロナは長期化しそうですが、世の中が、心理的に交流を再開しようとする時期がくるまで、親睦活動はしばらく中止でよろしいかと思います。
- ・コロナ感染のリスクの少ない親睦活動（ゴルフやテニスなど屋外で行うこと）、ZOOM を利用した持ち回りの近況報告（先輩方のセカンドイニシエーションスピーチの話がこの前出ていたが面白いと思う。）など。
- ・みなさまお会いする機会も少なくなってきましたので、以前週報にあった「めんぼう」のような形で、会員の皆さまのお仕事や趣味などの紹介を赤坂 RC 会員ホームページや member のみログインできる SNS 上にテキストまたは動画で自由に乘せて、コメントし合うようなコミュニケーションもようかと思います。
- ・皆様からのご意見をお待ちしています。
- ・ZOOM は良いと思います。
- ・戦争のことを考えれば、数年間のブランクは大したことではないと思う。月並みですが、グループや目的ごとのオンライン会議・フェースブックグループの立ち上げ・LINE などオンラインも利用して交流をはかればよいと思う。
- ・ZOOM 等での火曜会の開催
- ・コロナの感染リスクを伴いながら活動するよりは、状況が落ち着くまでは自粛するのも安全のための一つの選択肢だと考えております。
- ・本年一杯は、動かないのが宜しいかと思います。他クラブやANAホテル（他顧客）の動向も適時情報収集されると宜しいかと思います。
- ・近くに寄っただけで感染するわけでは無いので、日常の生活に於いて感染予防の対策を十分に取って、行動できる方達で、行動をしても良いかと思います。親睦例会などは、リアルで開催する事は不可能な状況ですが、信頼できる方達で少数のグループを作り、それをネットですつないでの飲み会も良いかもしれません。飲食は、それぞれに用意して頂くこととなりますが、ゲームなどは出来るので景品を出すことも出来るかもしれません。
- ・クラブ奉仕が第一歩で、感染防止を前提にリアルを研究し実施する。
- ・週報を活用しては如何でしょうか。
- ・ZOOM 親睦会、Facebook で近況報告とそれに対するリアクション
- ・できるだけ、ハイブリッドでやるのが現実的か。
- ・オープンエアな場所での食事会・親睦会（コロナ対策を十分実施している場での）観戦、観劇など
- ・少人数のグループ単位で、感染防止対策を万全に行い、親睦活動を行う。
- ・メンバーの生活や、過去の親睦会とか旅行とかの楽しかった出来事、など、週報などを通じて、共有できれば連帯感が出るのではないかな。EX 旅行記、散歩、展示会、等々
- ・会員の経済活動にプラスになるような情報があれば発信するように心がけます。
- ・Zoom で会員の持ち回りで話していただく（めんぼうの Zoom 版）
- ・「飲酒をともなう」、「長時間」のイベントは、飛沫感染の危険性が高まるので難しいと思います。魅力的なイベントではないかもしれませんが、みんなで映画鑑賞をする、ゴルフをするというような、しゃべらない系、外での活動系のものではあるかもしれません。
- ・徹底した三密回避をする。例えば、少人数にする。リモートを活用する。野外で実施する等々を工夫すれば、やり方はあると思う。